2023_1022「オーローラ・レイ（写真）」日々の理科 3363 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

肉眼で観望できるオーロラの実体（オーロラ・ディスプレイ）は、カーテン状（バンド・オーロラ）やアーチ状（アーク・オーロラ）など、さまざまな形状を見せます。どのオーロラも、地磁気が形成する「磁力線」に平行な構造を持っています。カーテン状のバンド・オーロラではその磁力線の方向は観察しにくいのが普通です。

しかし時々「オーロラ・レイ」と呼ばれる構造が分離して見えることがあります。「レイ（ray）」とは、「光線」とか「半直線」といった意味で、オーロラを構成する、磁力線の方向を示す構造の一つを意味します。オーロラ・レイがはっきりと現れると、オーロラの実体がどんな方向の磁力線で形成されているのかわかります。

この日のオーロラは、鮮明なオーロラ・レイに加えて、秋独特の美しい紫色のベールを伴って、誠に美しい光景でした。

（2023 年 10 月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス／東京から遠隔観測）